

# 東日本大震災復興支援 生活支援相談員ニュースレター

～VOL.39～

【発行】

社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会 地域福祉企画部 コミュニティ振興グループ  
岩手県盛岡市三本柳 8-1-3 ふれあいランド岩手内 TEL:019-601-7042 FAX:019-637-7592

令和元年 5月発行

## 生活支援相談員の役割等を学ぶ ～新任生活支援相談員研修～

平成31年4月25日（木）、ふれあいランド岩手で、第1回新任生活支援相談員研修を開催し、新任の生活支援相談員等、22名が参加しました。

はじめに、県社協から「社会福祉協議会の概要」と「社協と生活支援相談員の役割」について講義を行いました。

「生活支援相談員の役割は個別支援（寄り添い）と地域支援の両面がある」「個別支援とは寄り添うこと。寄り添うとは横に並んで一緒に考えること」等の話から、参加者は生活支援相談員の役割について理解を深めました。

続いて、大槌町社協の小豆嶋幸江生活支援相談員と小林大輔生活支援相談員から、生活支援相談員活動について、実践発表がありました。昨年は参加者としてこの研修に参加し、その後、相談員として経験を積まれた先輩の言葉に、参加者は熱心に聞き入っていました。



### ★ 相談員としてのやりがいとは？

- ① 出会いがある
- ② 名前や顔を覚えてもらえる
- ③ 声を掛けてもらえる
- ④ 生まれ育った場所の新発見がある

### ★ 相談員としての悩みとは？

- ・ 会話のきっかけや傾聴が難しい
- ・ 先輩相談員との差を感じる

日々の相談員活動の中で感じるやりがいや、悩みについても率直に語られ、「訪問を重ねて信頼関係を築くこと」「分からないことは何でも先輩相談員に聞くこと」「会話のきっかけは庭先の花や季節のこと等、日常の何気ないこと」とのアドバイス

がありました。先輩の話から、参加者は大きな励みを得ることができたようです。

演習では、ロールプレイを通して、住民と関わる際の心がまえや話の聞き方、感情の受け止め方等、基本的な対人援助技術のポイントを学びました。

研修を振り返り、「実践発表が素晴らしかった。同じような戸惑いや悩みを乗り越えて成長されていて励みになった」「気持ちに寄り添う意味が理解できた」等の感想があり、参加者は生活支援相談員活動への意欲を新たにしていました。



## 住民と一緒に支え合いマップを作成

～大船渡市日頃市板用地区～

県社協では、「支え合いマップ」をツールとした地域支援に取り組んでいます。住民の皆さんから地域のことを教えていただき、住民同士の支え合いを生かした地域づくりを目指し、今年度も各市町村の48地区で支え合いマップの取組が予定されています。その中から、大船渡市日頃市板用地区でのマップづくりの様子を紹介します。

令和元年5月16日(木)、10時から板用地域公民館で、住民支え合いマップを作成しました。

板用地区では、平成30年11月、婦人会が中心となり「あのねサロン」を立ち上げました。

今回は、サロンの世話人9名が集まり、大船渡市社協の生活支援相談員等4名が中心となり、日頃市地区助け合い協議会の生活支援コーディネーターと地域や住民の状況を聞き取り、マップ上に書き込んでいきました。住民同士が各世帯を把握しており、つながりあっていることが分かりました。参加者の意識は高く「次の世代へも引き継いでいきたい」「自分ごととして皆で考えていきたい」等の声が挙げられました。

マップ作成後には、作成に携わった社協職員で振り返りを行い、マップ作成から見えてきたご近所の良さ、特徴、つながりの再構築に関する現状と課題を話し合いました。

6月のサロンに合わせ、参加者のほかサロン会員と一緒に共有し、マップ作成で見えてきた強みを生かし、取り組む内容を検討する予定です。



## 被災者支援の方向性を話し合う

～沿岸と内陸で情報交換～

令和元年5月24日(金)、ふれあいランド岩手で「第1回被災者支援連携会議」を開催し、沿岸、内陸の生活支援相談員、統括担当者、もりおか復興支援センター、いわて内陸避難者支援センター職員等43名が参加しました。



午前中は、県社協から今年度の被災者支援に関わる事業説明を行い、久慈市社会福祉協議会から「生活支援相談員活動の収束における経過と課題について」、いわて内陸避難者支援センターから「内陸避難者の現状と活動状況について」情報提供がありました。

久慈市社協は生活支援相談員の配置が平成30年度で終了しています。収束に向けて「支援終了の話を半年かけて個別に説明した」「民生委員や行政への引継ぎを丁寧に」

「支援の終了後、被災者から連絡があった場合の担当を決めておく」とよい等の話がありました。

グループに分かれての情報交換では、「参加費をもらうようにしたらサロンの参加者が増えた」「住民主体にするため、社協が入りすぎないことも大事。また、振り返りも必要」「宮古では生協の拠点を使用したサロンを開催している。地域の資源を活用したサロン展開や、会場の工夫も大事」等の話が出ました。

また、「生活支援相談員が目指す自立支援とは何か？」との課題も出され、「支援者の考える自立と当事者の考える自立が一致し、支援者の押しつけにならないようにすること」を全体で共有しました。